

活動写真



青年海外協力隊（青少年活動）が活動するコミュニティスクールで結核教育を行う結核治療サポーター。



12月1日の世界エイズデーには、結核治療サポーター245名で参加しました。エイズイベントで「結核・エイズ（TB/HIV）の併発」についてアピールしたことは主催者からも高く評価されました。



（写真上）

世界エイズデーのパレードの最中も、結核治療サポーターは沿道の人々に結核予防のリーフレットを配布して、啓発活動を行いました。



結核治療サポーターのリフレッシュ研修では、10月の南アフリカ研修に参加した保健センターの医師が講師を務めました。



（写真右）

リフレッシュ研修では、患者や患者家族への接し方についてのロールプレイなども行われます。



結核担当看護師から、結核コーナーでの業務内容や薬の配分についての講義も行われます。



保健センターにパソコンとプリンターを寄贈しました。データ管理のための研修も受け、効率的に患者管理が出来るようになりました。



結核啓発グッズとしてチテングやカレンダーなどを作成しました。



新規の 12 保健センターにも自転車を寄贈しました。家庭訪問などに活用されます。



栄養・料理教室では、保健センターの栄養師による栄養教育と栄養価の高い料理が紹介されます。

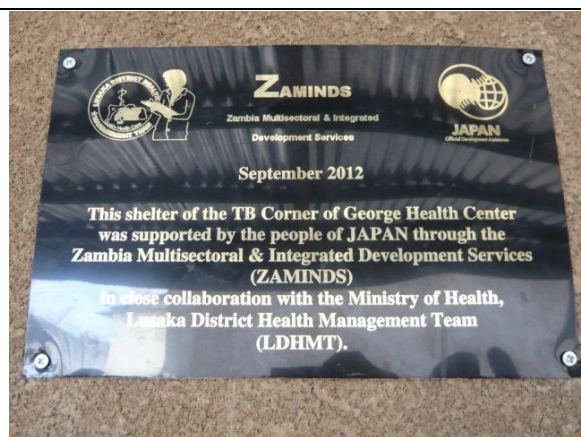


小児結核患者の子どもたちにも紹介した料理は美味しいと好評でした。



ジョージ保健センターの結核コーナー。庇がなく、待合室もないため、患者は屋外で待つしかありませんでした。

庇を設置し、待合スペースとしました。乾季の晴天も、雨季の雨でも安心して順番を待つことが出来るようになりました



ジョージ保健センターの庇に設置されたプレート。日本の ODA で設置されたことが明記されています。



全 18 保健センターの結核治療サポーターが集まるサポーター総会を開催しました。



総会では、メディカルアドバイザーの医師から小児結核の現状と結核治療サポーターの必要性についての小講義が行われました。みな真剣です。



結核の恐ろしさと結核治療サポーターの活動を紹介する劇も披露されました。